新京日日新聞
夕刊
七月二十二日
發行所 新京日日新聞社
發行人 十河榮忠
編輯人 松本勇
印刷人 水越內之介

けふ御裁可を仰ぎ 陸軍定期大異動內命
異動延人員三千五、六百名 各方面で深甚の注目

【東京國通】林陸相は廿二日午前葉山御用邸に伺候 天皇陛下に拜謁を仰付けられた上陸軍定期大異動に關し內奏御裁可を仰ぎ即日內命を發することになつた、今回の異動はその前奏曲として一大衝動をまき起した教育總監の更迭あり、且つ林陸相が就任以來使命とする人事の刷新と部內統制强化の完成が企圖され、從つて異動延人員は三千五、六百名以上の多數に上る可く各方面から深甚の注目を拂はれてゐる

伯國移民會社設立案 拓務省で研究

【東京國通】拓務省では豫て南米方面に對する移植民事業の恒久的國策樹立を企圖しこれが手始めとして前大藏參與官上塚司氏の主催する南米アマゾニア移民研究所を解體、之を基礎として新移植民會社を創設することを決定、目下具體案の作成方を急いでゐるが、同案の內容は上記アマゾニア研究所を解體して取敢ず資本金五百萬圓程度のブラジル移民會社を設立、內地に親會社を置きブラジル國アマゾン流域のパリンチンスに子會社を置かんとするもので明年四月開設に次で四、五百人の移民を募集、漸次增加して向ふ十ヶ年間に二萬人を送つて米、コーヒー、棉等熱帶特產物の耕作栽培に從事せしめその間拓務省より十ヶ年間を通じて投下資本に對し年六分の割合で保證せんとするものである此秋迄には具體案が決定される模樣である

土建協會から 入札方法改正を陳情

事變後滿洲の工事界が俄かに活況を呈するに至つて內鮮方面より進出せる請負業者は夥しい數により自然工事獲得に激しい競爭が行はれそのためむやみに安價な工事請負をなしひいては材料代金、勞銀等の不拂をなすものも出來、更に遺憾なことには工事の質が低下するものさへある狀態なので滿洲土建協會ではかゝる事故を未然に防ぐには從來各企業者が指名競爭入札又は公入札の如き極端なる入札方法をなせることを主因とする故これを繼續せしめず或ひは緩和せしめるやう而して實費精算請負制度又は特命、單獨入札方法を採用するやうとの陳情書を滿鐵、軍經理部、滿洲國、關東局、鐵路總局、電々電業其他へ提出した

八雲、淺間 横須賀に入港

【館山國通】二月二十日横須賀を發つた遠洋航海の練習艦隊の八雲、淺間は支那方面からマニラ、シンガポール、濠洲、ホノルル等二萬キロ餘を航破して廿一日午前七時司令官中村少將搭乘の八雲を先頭に横須賀に入港した、尚航空母艦の艦上戰鬪機七機は午前七時半練習艦隊が大島南方に現はれた際空から歡迎の意を表した

羅監察院長 兇作地救濟に二萬圓投出す

昨年の凶作に依る各地窮民救濟の爲政府では二百萬圓で糧穀を買付配給する等救濟に奔命して居ることは屢々報道した通りであるが、監察院長羅振玉氏は痛く凶作地窮民に同情し其の救濟の資に充てられ度いと民政部大臣に二萬圓の寄附を申出たので民政部では喜んで此の寄附を受け早速災歉地方救濟委員會の手を通じて凶作地の窮民救濟に充てることゝなつた

エチオピア皇帝 祖國死守の決意披瀝
外國新聞記者團に謁を賜ふ

【アヂスアベバ廿日發國通】皇帝ハイレセラシエ一世は廿日特にアヂスアベバ駐在外國新聞記者團に謁を賜はり再び斷乎祖國死守の決意を披瀝した

エチオピア帝國は獨立三千年の歷史を有する、イタリーは四十年前アドアの戰で一敗地にまみれて以來復仇の念に燃え遂に今日に至つてエチオピアに對し理不盡な壓迫を加へて來た、この國難に際し余はイタリー及び世界に向つて斷言する、エチオピア帝國は最後の一人に至るまで我國土を守り未だかつて外敵の爲に征服されたことのない光榮ある記錄を保持するであらうエチオピア國民が決然たつて正義の師を起さうとするに當り各國政府がエチオピアに對し武器輸出を禁じてゐるのは遺憾千萬である、然し余はエチオピアの正義は窮極に於て勝利を占めるものと確信するが故に來るべき聯盟の決定に對しても滿腔の信賴をおいてゐるものである

議會演說に イ、エ兩國關係益々惡化

【ローマ二十日發國通】イタリー政府はエチオピア皇帝ハイレ、セラシエ一世の十八日議會演說を重視し、十九日アヂスアベバ駐劄イタリー公使館より外務省に電送された演說のエチオピア語成文を仔細に點檢した結果原文の反伊的語調は外部に發表されたものに比し更に激越を極めて居り上下をあげて憤慨しイタリー政府は廿日アヂスアベバ駐劄ビンチ伯に對し嚴重抗議方を訓令した、事態は今や惡化の一路を辿つてゐる

イタリー公使 嚴重抗議

【アヂスアベバ廿日發國通】イタリー公使ビンチ伯は廿日本國政府の訓令に基きエチオピア外務省を訪問、十八日のハイレ・セラシエ一世の議會演說に對し强硬な抗議を提出した

東阿の戰機 いよ〳〵迫る
各國政府代表の保護策を講ず

【カイロ廿日發國通】東阿の戰機頻々に迫りエチオピアと外交通商關係を有する、各國政府はアヂスアベバ駐劄自國代表機關保護の爲夫々エヂプト駐留軍隊と連絡、目下萬一の場合の對策に汲々たる有樣であるが就中英國政府はアヂスアベバ駐劄公使兼總領事バートン氏以下館員の安全に萬全を期する爲公使館用として廿日土嚢用布袋を數千個急送する爲種々の手配を講じてゐる、一般にエヂプト、スダン方面英佛等各國議闢の見解を綜合すると伊エ開戰は最早不可避といふ意見に一致し殘された問題は唯何時火蓋が切つて落されるかだけであると觀てゐる、聯盟特別理事會が豫定より早く來る二十九日に招集と決したことは或はイタリーの軍事行動を豫期されたより早める事にならうと觀てゐる但しエチオピア一帶は恰度雨期の眞最中でイタリー軍としては今速刻に追擊を開始する事は困難であらうと觀るものもある

世界第一海軍を 米國政府が企圖
海軍水陸施設の增大計畫 眞珠港に重點を置く

【東京國通】海軍無條約狀態の到來を豫想してゐる米國では世界第一海軍の實現を企圖し目下建艦能力並に根據地に於ける艦隊收容能力の

增大

補給修理施設の完備を進めて居るが右諸施設の增大强化は驚くべきものがある、同海軍の水陸施設費はワシントン會議直後一億四千五百萬弗を投じ一九二五年より一九四四年に亘る廿ヶ年間に完成する豫定で一九二五年より一九三〇年の六ヶ年に僅か二千萬弗の豫算を以て實施しつゝあつたが一九三六年度に於て一年四千六百萬弗と急激な增加を示し之に依つて見るも同國の如何に造艦競爭の準備を進めて居るかゞ窺はれる、而して現在實施してゐる水陸施設の要目は

一、船渠並に同設備を增大し建艦能力修理能力を增大する外戰艦を收容出來る大型浮船渠を建造する計畫もある

一、繫船岸壁及び棧橋を新設及び停泊地擴張を行ひ海上大部隊の入港を可能ならしむ

一、根據地の燃料貯藏量增大等であるが特に注目すべきは右施設の大部分は太平洋方面に於ける根據地に行はれて居ることでサンフランシスコ、サンヂイゴ、サンペドロ、ピユーヂエツト、サウンド、パナマ運河地方及び眞珠港等に於ける根據地設置の外アラスカにも根據地を造ると傳へられて居り太平洋の前進根據地たる眞珠港の水陸施設には特に

重點

を置き既に全艦隊の收容可能となり莫大の燃料油を貯藏し得るに至つたとのことで更に今後の設備擴大されるものと見られてゐる

三浦吉林總務廳長 歐米出張

吉林省三浦總務廳長は今回政府の特命を帶び在官のまゝ歐米各國の政治經濟の眞相を視察する爲めに一ヶ年の外國出張を命ぜられた、この擧は政府としては同氏の就任以來默々として努力し來つた功績に酬ゆると共に政府部內有數の識見家たる同氏の視察報告に相當の期待をかけて居るものと見られて居る

大連商議 常議員改選

【大連國通】大連商工會議所では廿日午後三時半より同所に於て定期總會を開催

一、昭和十年度事務報告
二、昭和九年度經常費、基本金、退職給與金決算報告
三、昭和九年度末現在財產目錄報告
四、同所定款中書記長の名稱を理事に改むる件

を可決し

五、常議員五十名々選の件
六、特別常議員囑託の件

を議長指名に依る七名の詮衡委員並に議長に於て詮衡の上滿場一致常議員重任四十二名新任八名、計五十名並に特別常議員全部重任と決定を見た尙同所に於ては近日右改選された新常議員に依る役員會を開催し正副會頭の互選を行ふことゝなつた

七月中旬 對外貿易概況

【東京國通】大藏省發表七月中旬對外貿易次の通り（單位千圓）

輸出	六七、一七六
輸入	六九、七〇五
入超	二、五二九
合計	一三六、八八一
一月以降累計入超	三七二一五、五

尙中旬內地重要品輸出入額左の如し

品目	金額
△輸出	
小麥粉	七二七
罐瓶詰食料品	九〇九
綿織糸	一、二〇八
絹絲	九、六二九
綿織物	一二、一五四
絹織物	二、一〇一
人絹織物	三、三六一
メリヤス製品	一、四一二
△輸入	
小麥	一、七八一
豆類	一、三〇〇
石油及重油	三、二三九
棉花	二〇、二七一
羊毛	四、六四二
鐵	五、七〇〇
機械類	三、五六二
木材	七八二

京大鐵路沿線の 愛護村長會議

京大線沿線村落に鐵道愛護思想を普及し〝民路合作〟〝以民護路〟の實を擧げしむるを目的とし東南地區鐵路愛護會愛護村顧問、愛護村長會議を京大中央委員會では廿日から左の日割によつて各地で開催東南防衞地區治安工作と呼應し匪情通報の促進强化を圖り以て來るべき高粱繁茂期に於ても匪賊或は不逞分子の蠢動を抑制しかねて鐵路運行上の完全なる防彈障壁たらしむるに就て協議したい、新京中央委員會から乃台第〇〇隊長、新京滿鐵建設事務所木村庶務課長等列席、先づ一日一信主義を强調し各愛護村より一日一回必ず所轄愛護區と連絡すると共に一方擔任區の鐵道巡察を嚴すことゝなつたが相當の效果を擧げることであらう因に各地の式の順序は左の如くである

一、開會の辭
一、鐵路愛護運動の說明
一、愛護區幹事致辭
一、愛護村長代表答辭
一、管內鐵路事故有無及其の對照說明
一、懇談
（1）聯合愛護區委員長若は代理諮問
（2）匪情報告の協議
（3）愛護村長及村民の希望意見聽取
（4）其の他

▲二十日午前九時、前郭旗、前郭旗及木頭の半分、前郭旗に接近し居る部落村長にして日歸り出來得る所
▲午後二時、新廟、新廟と木頭の殘り及八狼屯の半分、新廟終了後大賚に向ひ一泊
▲二十一日午前八時、大賚、大賚と八狼屯の殘り
▲午後二時、七家子、七家子と哈馬の半分、終了後前郭旗又は王府に一泊
▲二十二日午前九時、王府、王府哈馬の殘り二爺の半分
▲午後二時、哈拉海、哈拉海火石嶺の半分二爺の殘り
▲二十三日午前八時、農安、農安火石嶺の殘
▲午後二時、華家、華家小合隆、萬寶山、華家

その日く

□
米國、世界一海軍を目指し各種の新計畫、魂の入らぬ軍艦軍港何の役に立とうぞ
□
一旦引揚げた對北鐵ソ聯從業員、また逆戻り、表面だけの理由ならよいが
□
東北、北陸に冷害、九州に水害で兇作豫想さる、何處迄堪え得るや神の試練
□
新京署の失業者調べによると女にはまだ〳〵働く余地ありそう、美人局は例外として
□
腺ペスト發生か、まだ少々流行には早過ぎるが、といふて油斷は大敵

人事往來

▲島貫忠正氏（軍人）二十一日午前來京國都ホテル投宿
▲大久保義男氏（グリッピストン會社員）同午後來京同
▲長野鳶三氏（グリッピストン會社員）同
▲濱田正直氏（滿洲國稅關吏）同
▲小南夫一氏（進和商會員）二十二日午前來京同
▲新井恒男氏（同）同
▲井上大佐（獨立守備隊大隊長）廿一日午前發安東へ
▲柳井義男氏（福井縣經濟部長）二十一日午前發哈市へ
▲富久尾均氏（滿洲セメント）二十二日午前發遼陽へ
▲長岡禎一氏（礦山業）新京ホテル投宿中の處今朝奉天へ
▲板垣少將（關東軍參謀副長）二十一日午後發奉天へ
▲篠康氏（奉天省長）同來京
▲吉興氏（第二軍管區司令官）同
▲彭金山氏（陸軍中將）同鄭家屯へ
▲有田宗義氏（鐵路總局員）二十一日午前來京ヤマトホテル投宿同日午後發奉天へ
▲松前寬一氏（周水子三井物產會社員）同二十二日午前發ハルビンへ
▲西田字典氏（同）同
▲西田秀雄氏（同）同
▲山田孝介氏（大連會社員）二十二日午前來京ヤマトホテル投宿
▲土屋飛一氏（東京官吏）同
▲伯田信一氏（大連三機工業會社員）同
▲古川涉氏（同）同
▲野田清一郎氏（旅順工科大學校長）同
▲金璧東氏（龍江省長）同
▲一宮房次郎氏（代議士）二十二日午前發ハルビンへ
▲星野達男氏（立教大學教授）同奉天へ
▲濱口幹三郎氏（大林組大連出張所）二十一日午後來京名古屋ホテル投宿
▲馬場龜雄氏（ハルビン土木請負業）同
▲瀧澤俊一氏（野村セメント會社員）同

團体

▲廣島高等師範學生十五名二十二日午前七時發吉林へ
▲高岡高等學生五名二十二日午前九時二十分發ハルビンへ
▲京都專門學生十二名二十二日午後四時二十分來京扶桑旅館投宿二十四日午前九時二十分發ハルビンへ
▲新京各小學生海水浴場ゆき二百四十五名二十二日午後十時發南行
▲京城普成專門學生二十名二十二日午後二時來京
▲島根縣實業視察團大槻清氏外八名二十一日午後あじあで來京新京ホテル投宿

戀は冒險の峠

作者の言葉　木下双葉

世のあらゆる女性が、戀してゐる時ほど强い事はないと思ひます。それが純情の戀であれば、あるほど、その戀してゐる女性をして一層强くさせてゐると思ひます。或る場合には生命を賭しても戀人のために冒險をはたらくことがあり、或は戀人のためであつたら死をもいとはないことがあります。私が此から書かうとする小說は、さうした純情な女性の戀を描きそしてその取材を度々ロケーションに行つた時、山で見聞してきた炭坑生活をバックにして見るつもりです。私としては、生涯に一度の小說かも知れません。兎に角、後に殘るものだけに一生懸命の努力を惜しまず書いて見るつもりです……。

1 ……… 研究心（一）

田坂は、夜勤をすましてから坑外に登るべく、第一竪坑の昇降口の方へ急いでゐたのです。そ灰色に澱んでゐる空氣が、そよ〳〵と動いてゐて、二間か三間隔きぐらゐに點つてゐる電燈の光りが、ぼうッと四邊を薄明るくしてゐました。

ぽたり、ぽたり！と夜露のやうに落ちてくる地水が、田坂の肩のあたりに、パタ″と一粒落ちた。

『旦那、田坂の旦那……』

『おゝ』

闇のやうに。陰暗な窪みの中から、石炭で黑くなつてゐる男が、のそりと顏を出して言葉をかけたのです。

『今ですか？』

『あゝ』

田坂は輕く返辭をして、一寸振返つたが、其の儘スタ〳〵と其處を通り過ぎてしまつた。

言葉をかけたその男が、誰であるのか田坂には見當がつかなかつたのですが、若い坑夫の一人であることだけは、その言葉つきや身のこなし方で察しられた

『誰だらう？』

一寸、考へて見たが、深くこだはつてゐずに、彼はスタ〳〵歩いて行つた。

實際、誰だつて構はないのである。田坂のやうに、坑山役員になつてゐると、自分の見も知らない人から、能く言葉をかけられたり、愛想を云はれることがあるからである。

橫道から本道の方へ出ると、其處は昇降口になつてゐて、丁度、もう交代時間になつてゐたから、ケージ（昇降機）が騷しく上下してゐました。

坑夫達の、わい〳〵喚き立つて騷いでゐるのが田坂の眼に止まつた。いつも見馴れてゐる光景なのですが、田坂には、かうした賑やかな人聲が、なつかしい或る親しい情を與へてくれるのです。